



—東地中海地域ニュース—

トルコ：憲法改正に関する国民投票の結果②

(9月13-14日付現地各紙)

9月12日に行われた憲法改正に関する国民投票の結果について世論を二分した国民投票の結果を反映し、13-14日付現地紙の報道振りも多種多様であり、3グループに分類できる。改正賛成派の勝利を祝福する、改正反対派の結果に甘んじることを否定する、そして中立的な紙面で結果を尊重することを促す報道である。概要は下記のとおり。

1. 改正賛成派各紙

(1) ザマン紙

「民主主義の勝利」との見出しを掲げ、トルコの現憲法の基礎を作った1980年9月12日のクーデター30周年に際し、新たな憲法制定に向けた地ならしになるとして結果の重要性を伝えた。

(2) タラフ紙およびスター紙

1980年クーデター時のヒューリエット紙号外の見出し「軍が権力を獲った」に言及した上で、「民衆が権力を獲った」との見出しを掲げた。

(3) ミッリ・ガゼテ紙(福祉党系)

「われわれ国民の選択。これからは新たな憲法」

2. 改正反対派各紙

(1) ソズジュ紙(反公正発展党(AKP)紙)

「我がスルタン永遠に」との見出しを掲げ、エルドアン首相をオスマン帝国のスルタンに見立てたイラストを掲載した。

(2) イェニチャー紙(民族主義系)

「激しい分裂」との見出しを掲げ、国民投票によって国家の両極化が促進されたとした。

(3) ビルギュン紙(社会主義系)

「民族主義的・保守的な国民の投票行動は今回も変わらない」との見出しを掲げ、反対票を投じたのは主に左翼主義者であり、民族主義者行動党(MHP)メンバーは同党指導者が反対票を投じるよう呼びかけたにもかかわらず賛成票を投じたと伝えた。

3. 中立派各紙

(1) ハベルテュルク紙「賛成57.9%」、アクシャム紙「幸運を祈る。賛成58%」との見出しを掲げた。

(2) 国民投票に対する態度を表明してこなかったが、多くのコラムニストが反対派であったミッリエット紙は「600万票差の賛成」と伝えた。

4. ムラト・イエキン論説委員は、13日付ラディカル紙において概要以下のとおりのコラムを掲載している。

- (1) 今回の憲法改正が、9.12クーデターの清算となるかどうかは議論が分かれるが、AKP主導の改正案を有権者の58%が支持したことは明白な事実である。エルドアン首相が憲法改正はAKPのプロジェクトではないと強調しても、これはAKPの勝利である。2011年の総選挙を前にAKPは重要な試験を成功裏に突破したというべきだ。
- (2) MHPの支持有権者が、党の方針に逆らい賛成票を投じたことは、MHPにとって深刻な問題をもたらした。
- (3) 国民投票前に、「不十分だが、それでもイエス」とのキャンペーンを張った人たちがいたが、今や「国民の審判はイエスだったが、今回の改正で十分か」という問題に変わっている。エルドアン首相は、2011年総選挙後に新憲法を制定すると述べており、CNNトルコのインタビューで大統領制に言及したことも憲法改正とともに次期総選挙の争点になり得る。
- (4) エルドアン首相は、上記インタビューにおいて憲法改正に伴い判事検事高等委員会(HSYK)の構成の変更とともに、法務大臣の権限を制限する法改正をすぐに行うと約束した。

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799